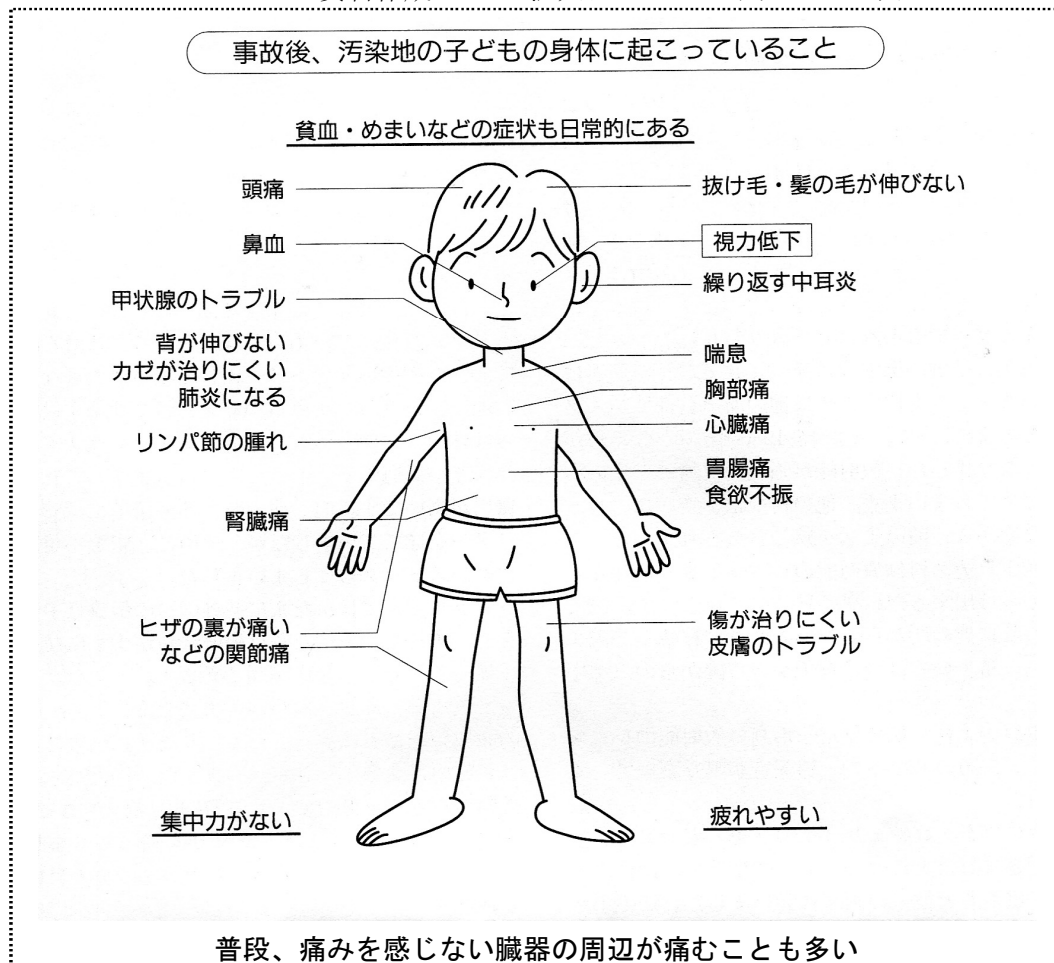


チェルノブイリの母親、100人以上から聞きました！

「病氣の花束」を抱えていると言われた子どもたち

資料作成：NPO 法人チェルノブイリへのかけはし 2014年4月17日



汚染地で暮らす子供たちに何が起きているの？ —「チェルノブイリ・エイズ」 放射能(外部・内部被ばく)による、抵抗力の低下

- ・子供たちは顔色が悪くなり体力が落ちて、走り回れなくなります。
- ・さらに、集中力がなくなって、授業は25分単位で行われています。
- ・汚染食品がもたらす胃腸障害で少量しか食べられなくなります。
- ・子供たちが集団で、具合が悪くなってたくさんの村が閉鎖されました。(子供が放射能カウンターがわり)
- ・目の下に大きなクマが入るようになります。(甲状腺の機能低下) →すぐ疲れる。
- ・急激な視力低下が起こり、黒板の字が見えなくなる→初期：移住の対象→後に救済放棄
- ・一見、風邪のような症状がずっと直らない。風邪を引いてもすぐに肺炎など重症化する。
- ・精神的な落ちこみがあると、重大な病気へ一気に傾く可能性があります。
- ・白血病、小児癌などは、氷山の一角。そこに至る前に無数の「病氣の花束」を抱えた子供たちがいます。
- ・放射能に慣れる感じがする。そして、忘れた頃に一気に、症状が噴出する。
- ・大人と同じように心筋梗塞(セシウム汚染)や脳梗塞、骨粗鬆症(ストロンチウム)になる子もいます。
- ・放射能は母親から子供へ移動する。二世、三世は生まれながらに病氣を抱えている。

放射能による抵抗力の低下は、避難と食物の改善で抵抗力をあげる。

頭痛薬・腹痛薬・風邪薬ではなおらない。

大人でもこのような症状はありませんか？

次第に慢性化していきます。—なかなか抜けない症状—

- ・めまい
- ・吐き気、嘔吐
- ・腹痛（胃のいたみをはじめとして）、食欲不振
- ・頭痛
- ・だるい
- ・下肢のむくみ
- ・唾液の分異常（口のかわき、にがみ、鉄や金属の味）
- ・急な衰弱（体力低下、疲れやすい、眠気など）
- ・皮膚のトラブル（傷が治らない、グズグズする、かゆみ）
- ・睡眠障害
- ・自律神経失調症
- ・心臓のいたみ
- ・高血圧
- ・関節の痛み
- ・集中力の低下により、考えがまとまらない、計算がしにくい、脱力感
- ・鼻血
- ・耳鳴り
- ・風邪がなおらない
- ・皮膚のちりちり感
- ・高熱
- ・のどのいがら、甲状腺の腫れ
- ・消えない口内炎

医師は、こうした被ばく症状を体験していないので、たいてい「風邪」「疲労」として、薬を出されて終わりです。あるいは、事故の精神的ショックと診断されるかもしれません。

それらも含めた上で、総合的に事態が進行していきます。

慢性的に放射能が含まれたものを吸入したり食べたり（内部被ばく）、土壌汚染のある地域に住んだり、放射能に触れたりする（外部被ばく）と、知らず知らずのうちに抵抗力が落ちていきます。

体調が戻りにくく、回復が遅いなど感じていませんか？

あるいは、今までかかったことがないような病気や症状が出てきたな、と思いませんか？

このような症状は、抵抗力をあげないと治りません。

—放射能が原因の頭痛は、頭痛薬を飲んでも治りません。